



じゃがいもずきん
「ききぼう」くん

北海道では、暴風雪災害が繰り返し発生しています。
 暴風雪とは、雪を伴った強い風が吹くことです。降っている雪も積もっている雪も風で巻き上げられるため、視界が真っ白になります。また、風で運ばれた雪が建物や車などでさえぎられた場所にたまる『吹きだまり』も発生します。
暴風雪被害を回避するには、気象台から「数年に一度の猛吹雪」「外出は控えてください」という言葉を使った気象情報が発表されたら、厳重な警戒が必要です。
 暴風雪時に限らず、冬期間、車で外出する時には、天気急変などで車が立ち往生する事を想定し、防寒着・長靴・手袋・スコップ・けん引ロープ・ブースターケーブル・スノーヘルパー・スノーブラシ・懐中電灯・毛布・カイロ・携帯電話・充電器・水・チョコレート・非常食・簡易トイレなどを車に積んでおきましょう。また、車に十分な燃料が入っている事を確認しておく事も重要です。特に遠出の際には、満タンにしてから出発する事を心がけましょう。

もしも、暴風雪に遭遇してしまったら…



ホワイトアウトで対向車も歩行者も見えない道路(中標津町)
平成27年(2015年)2月3日

歩行中や屋外で作業中の時

視界不良(ホワイトアウト)により方向感覚がなくなり、自分の位置が分からなくなることがあります。

1. 商店やコンビニ、人家などの建物の中の安全な場所に移動して天気の回復を待ちましょう。
2. 歩行中は、風で飛ばされてくる物に注意しましょう。
3. 重ね着や肌の露出を少なくし、体温が低下しないようにしましょう。



車を運転している時

運転中に暴風雪となり視界が悪くなった時は、そのまま運転を続けるのは大変危険です。

1. 道の駅、コンビニなどで天気の回復を待ちましょう。
2. 気象情報や道路情報を確認しましょう。

途中で立ち往生をしてしまった時は、後続車から追突されないように気を付けましょう。

1. ハザードランプを点滅、停止表示板を置きましょう。
2. JAF等のロードサービス、近くの商店や人家等に救助を求めましょう。
3. 避難できる場所や救助を求められる人家が近くにない時は、警察・消防に連絡して救助を求めましょう。

車内で救助を待つ時は、排気ガスによる一酸化炭素中毒や低体温症に十分注意が必要です。

1. 一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを停止し、防寒着などで体温の低下を防ぎましょう。
2. 車が雪に埋もれた状態でエンジンをかけ続けると、一酸化炭素中毒の危険性があります。埋もれる深さが深い程、危険です。
3. 止むを得ず雪に埋もれた車にエンジンをかける時には、排気管出口(マフラー)を確実に大気へ開放し、追加降雪や吹きだまりによる再埋没に注意しましょう。
4. 風向きや窓の開度などの条件によっては、窓を開けていても窓を閉めている時より一酸化炭素中毒の危険性が高くなる場合があります。窓を開けていても絶対安心とは言えませんので注意しましょう。

吹きだまりで通行できなくなった道路(中標津町)



平成26年(2014年)2月21日



上左右
平成27年(2015年)2月4日 下



家の中にいる時

FF式暖房機等の給排気口が吹きだまりでふさがれると、一酸化炭素中毒を起こす可能性があります。

1. 給排気口がふさがれていないか確認しましょう。
2. 出入口を確保するため、吹きだまりの状況を見て除雪しましょう。

暴風雪で一瞬にして数メートル先が見えなくなります。(右)



平成24年(2012年)4月4日稚内市内(気象庁から)

車の事故・人命救助の要請などは、警察110 消防119へ。

詳しくは、総務課 防災係まで。

